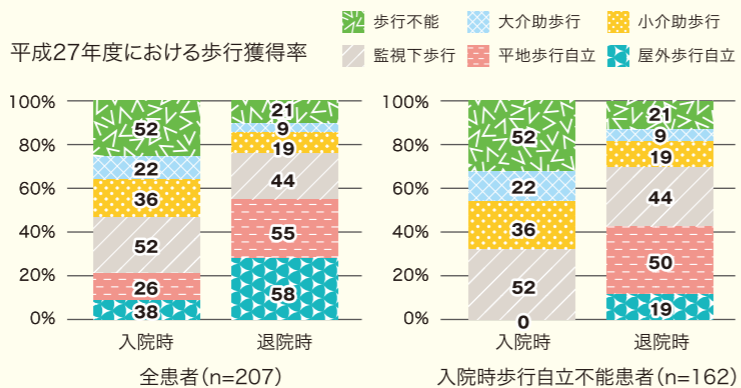


数字でみる錦海リハ

“また歩きたい”という想いを
実現できるよう努めています!

平成27年度は207名の方が入院されました。入院時に自立した歩行が困難であった患者さんは162名であり、このうち69名(46.2%)の方が退院時に自立しました。見守りがあれば歩行が可能な方も含めると、退院時には113名(69.8%)の方が歩行を獲得されました。



専門雑誌・書籍掲載

木村蒼(理学療法士)、今田健(理学療法士・リハビリ技術部係長)
発症前が独居である脳血管疾患を有する患者に関する実態調査
川崎医療福祉学会誌25(1)、川崎医療福祉学会
今田健(理学療法士・リハビリ技術部係長)
徒手による感覚入力 感覚入力による筋活動の定量化、視覚化を回る
臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス 感覚入力で挑む 感覚・運動機能回復のための理学療法アプローチ、文光堂

外部講演

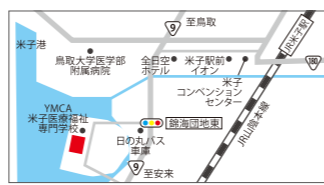
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
シンポジウム「医科歯科連携鳥取県西部圏域での取り組み」
リハビリテーション・ケア合同研究大会 神戸2015、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2015.10.1-3、兵庫県
竹内茂伸(言語聴覚士・副病院長)
講演「食を考える」
赤碓福祉会職員研修会、赤碓福祉会主催、2015.10.7、東伯郡
今田健(理学療法士・リハビリ技術部係長)
講演「表面筋電図と歩行」
第50回日本理学療法士協会 全国学術研修大会、日本理学療法士協会主催、2015.10.8、岩手県
今田健(理学療法士・リハビリ技術部係長)、原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)、上村順一、松原岳洋、足立睦未、両門美都(理学療法士)
講演「腰痛・基礎知識と予防運動」
腰痛、伯耆町社会福祉協議会主催、2015.10.28、伯耆町
善波吉人(社会福祉士・事務長代理)
講演「認知症の理解～対象者の理解と接し方～」
平成27年度 市民後援人養成講座、米子市・権利擁護ネットワークほうき主催、2015.10.31、米子市
竹内茂伸(言語聴覚士・副病院長)
講演「口腔ケアを考える」
赤碓福祉会職員研修会、赤碓福祉会主催、2015.11.18、東伯郡
今田健(理学療法士・リハビリ技術部係長)、上村順一、増原俊幸、足立晃一、松原岳洋(理学療法士)
講演「紹介 理学療法部門の管理」
管理運営、鳥取県介護労働安定センター主催、2015.11.20、東伯郡
今田健(理学療法士・リハビリ技術部係長)、永岡直充、木村蒼、両門美都、梶谷香穂里(理学療法士)
講演「安全衛生・健康管理」
雇用管理責任者講習会(専門)、厚生労働省主催、2015.11.24、倉吉市
坂根嘉奈子(看護師・看護部主任)、片寄加代子、福田由美子(看護師)
講演「回復期リハビリテーションでの看護師の役割と実際」
鳥取大学医学部附属病院研修会、鳥取大学医学部附属病院看護部主催、2015.12.4、米子市
角田賢(医師・副病院長)
講演「リハ栄養における多職種協働」
回復期リハビリテーション病棟協会 管理者研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2015.12.12-13、東京都
今田健(理学療法士・リハビリ技術部係長)、上村順一、足立晃一、松原岳洋、足立睦未、木村蒼(理学療法士)
講演「紹介 理学療法部門の運営」
管理運営、鳥取県介護労働安定センター主催、2016.1.13、東伯郡
善波吉人(社会福祉士・事務長代理)
講演「6ヶ月後維持期状況連絡票について」
鳥取県西部地区脳卒中地域連携研修会、鳥取県西部医師会・鳥取大学医学部附属病院・山陰労災病院主催、2016.1.14、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部係長)、原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)、遠藤美紀、足立睦未、永岡直充、長崎正義、両門美都、横木貴史、野坂進之介、前田久、松村結希、上村順一(理学療法士)
講演「腰痛対策updateと予防ストレッチ」
腰痛、大山町社会福祉協議会主催、2016.1.21、西伯郡
角田賢(医師・副病院長)
講演「2016年診療報酬改定におけるリハビリ分野の主要改定項目と回復期リハ1の要件厳格化への対応策」
保健・医療・福祉サービス研究会主催、2016.1.30、東京都
坂根嘉奈子(看護師・看護部主任)、片寄加代子、福田由美子(看護師)
講演「回復期リハビリテーションでの看護師の役割と実際」
米子医療センター研修会、米子医療センター看護部主催、2016.2.5、米子市
神坂綾(社会福祉士)
講演「入退院時の家族の関わり」
平成27年度 第2回家族介護者教室、安来市社会福祉協議会主催、2016.2.9、安来市
善波吉人(社会福祉士・事務長代理)
講演「鳥取県西部圏域脳卒中6ヶ月後維持期状況連絡票」について
第20回鳥取県西部脳卒中シームレス会議、鳥取県西部脳卒中シームレス会議主催、2016.2.17、米子市
角田賢(医師・副病院長)
講演「2016年診療報酬改定に伴う錦海リハビリテーション病院の影響分析と今後の経営戦略」
保健・医療・福祉サービス研究会主催、2016.2.28、東京都

学会発表

永岡直充(理学療法士)
麻痺側立脚期の骨盤帯の動揺を呈する患者1例に対し、股関節周囲筋活動のタイミングに着目した筋電学的検討
永岡直充(理学療法士)
脳血管疾患を持つ患者1例に対し、FVC、FEV1.0、PEFの値より呼吸機能評価に適したマウスピースの選定
梶谷香穂里(理学療法士)
大腿骨頸部骨折を受傷した症例に対して6分間歩行テストと徒手筋力テストを用いた2カ月後の経過
小山雅之(作業療法士)
失調症状に対して自動具を工夫して食事摂取が可能となった一症例
三島将太(作業療法士)
機能改善希望リハから活動・参加改善希望リハへ心境に変化が見られた症例に対する一考察
佐藤菜実子(言語聴覚士)
在宅失語症者に作業選択意思決定支援ソフト(ADOC)を用いる際の注意点の検討—中等度失語症者1例の取り組みを通して—
岩場加奈子(看護師)
オムツ外しスコアとオムツ依存度の関連
岡岡志穂(看護師)
頸部外傷後機能障害を有する高齢患者に対して多職種協働で行動抑制を廃止しながら在宅復帰へつなげた一例
前田慶子(介護福祉士)
片麻痺を呈する患者の服用管理を支援する補助具の作成
リハビリテーション・ケア合同研究大会 神戸2015、2015.10.1-3、兵庫県
原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)
夜間歩行時の転倒歴を有する脳卒中片麻痺症例における、明るさを変化させた条件下の下肢歩行時筋活動
原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)
クレンジック継手の角度調整が歩きやすさおよび歩行時の下肢筋活動に与える影響を検討した1例
第37回臨床歩行分析研究会定例会、臨床歩行分析研究会主催、2015.10.18、熊本県
堀谷多恵子(社会福祉士)
生活期への情報提供についての取り組みと課題
第5回 電子カルテ共通病院研究会、電子カルテ共通病院研究会主催、2015.10.25、東京都
古志奈緒美(言語聴覚士)
舌摂食補助床(PAP)の調整における嚥下動態の検討
第39回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会、日本嚥下医学会、2016.2.12-13、大阪府
福田由美子(看護師)
脳卒中再発予防パンフレット使用後の追跡調査
原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)
脳卒中患者における入院時、入院1週間後および1カ月後の基本動作の自立度と退院時の歩行の自立度の関連性
岡野有希子(作業療法士)
社会復帰に向けて化粧動作獲得を目指した一症例を通して一介護士とリハスタッフとの連携—
仙田春菜(作業療法士)
回復期リハ病院での関わりにより職場復帰が可能となった一症例
伊藤美晴(言語聴覚士)
軽度の失語症や注意障害がある方の職場復帰への取り組み—回復期病院退院後、外来リハビリテーションでめられた対応—
回復期リハビリテーション病棟協会第27回 研究大会in沖縄、2016.3.4-5、沖縄県
古志奈緒美(言語聴覚士)
The influence of body posture on swallowing musculature activity during head raising exercise
Dysphagia Research Society 2016、2016、アメリカ

診療方針：わたしたちは
回復期リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

R 錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院
TEL：0859-34-2300 [代表]
E-mail：kinkai-hp@kohoehn.jp
URL：www.kohoehn.jp

2016 VOL. 03

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院 開院10周年

錦海リハビリテーション病院は平成28年3月に 開院10周年を迎えました

皆様こんにちは。
去る3月21日を以って当院はオープンして丸10年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様のお蔭と感謝しております。
開院以来小規模のリハビリテーション専門病院として、365日専門リハを掲げリハビリ専門職(PT・OT・ST)の豊富な配置と教育、リハ看護の充実と介護士の協働配置、現場中心のチーム医療実践、臨床スキルの向上と自宅復帰へ向けての手厚い支援、前方後方連携、退院直後の生活期導入リハなどに取り組み、脳卒中患者さんの回復期を中心として実績を重ねてきました。しかしこの10年の間にも超高齢少子化社会の急激な進展、疾病構造の変化、老人医療費の増大、医療保険制度の硬直化など日本の医療を取り巻く環境は年を追うごとに厳しさを増し、病院のさらなる質向上は欠かせない課題となっています。



錦海リハビリテーション病院10周年記念式典。左から廣江研理事長、廣江晃副理事長、井後雅之病院長

病院機能評価受審を経験し得られたこと

病院の質向上の手段として、活動の範囲と要求される水準を明らかにし病院一丸となって集中的に質の改善に取り組むために公益財団法人日本医療機能評価機

構(JCQHC)による病院機能評価を昨年受審し10月2日付でリハビリテーション病院機能および付加機能として回復期リハ棟機能の認定を取得することができました。今改めて受審を振り返ってみますと次のような成果があったと思われます。

1. 会議・委員会・文書類(病院方針、リスク管理等を含む)など病院組織のインフラ(構造基盤)の整備ができました。
2. 診療活動の体系的包括的点検を行い、多くの点で質の改善を図りました。
3. 受審を契機に全職員の協力、団結が生まれ、改善への意識づけができました。



開院10周年記念 職員集合写真

これらの結果私たちは日々の診療においてより安心感を持って取り組めるようになりました。指摘された事柄や積み残し課題など今後も改善活動を継続する仕組みを作り、より良いリハビリ病院になるよう努めていきたいと思います。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 井後雅之

What's New

平成28年4月1日より制服を、さわやかなサックスブルーとピンクの2色に一新しました!



SPECIAL 最前線 2

公益社団法人 リハビリテーション医学会認定 リハビリテーション科専門医が 2名となりました

この度、角田賢副院長が新たに公益社団法人 リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション科専門医を取得し、井後雅之病院長との2名体制となりました。

リハビリテーション科専門医とは？

病気や外傷の結果生じる障害を医学的に診断治療し、機能回復と社会
復帰を総合的に提供することを専門とする医師です。専門医の資格は、
リハビリテーション科が関与するすべての領域について、定められた卒
後研修カリキュラムにより5年以上の研修を修め、資格試験に合格して
認定されるものです。(公益社団法人 日本リハビリテーション医学会
ホームページより抜粋)

質の高い医療を実践するため、認定資格を 積極的に取得しています

錦海リハビリテーション病院では医師の他にも様々なスタッフが知識及び技術レ
ベルを向上させ、質の高い業務を実践するため、各種学会・職能団体が認定する資
格の取得を積極的に目指しています。



リハビリテーションカンファレンスに出席する井後雅之医師(病院長)、角田賢医師(副病院長)、田中泰明医師(リハビ
リ部長・病棟専従医師)、高田尚文医師、他職員



井後雅之病院長
(公社)日本リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション科専門医



角田賢副病院長
(公社)日本リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション科専門医

理学療法士は様々な専門職とのチームの中で理学療法を提供していることも特徴
です。例えば、看、介護職員へ移乗動作、歩行などの介助方法を伝達する際には出勤
状況を考慮して3日間毎日同じ内容を伝達する、患者さんが理学療法によって起き
上がれるようになれば、情報を共有し活動量増加に伴う転倒、転落を事前に防ぐ、歩
行の範囲が拡大すれば、管理栄養士に連絡し、食事量の検討を要請するなどです。

そして、当院を退院した後の患者さんの42.9%が通所リハビリテーション、
34.8%が訪問リハビリテーションを利用しており、切れ目のない理学療法の提供
に努めています。



表面筋電図計測の様子

当部門では、評価機器として表面筋電図、呼吸機能検査計、活動量計、徒手筋力計
を有しています。これらの機器を用いて、理学療法の効果判定、改善度の把握に役立
て、日常生活動作(ADL)の改善、生活の質(QOL)の向上に繋がっています。

SPECIAL 最前線 3

リハビリテーション技術部の紹介 理学療法士(PT)のお仕事

当院は理学療法士が18名在籍し
ており、病棟だけでなく通所、訪問
部門にも理学療法士が配属されて
います。

理学療法は毎日1時間以上行
う他、自主練習の指導、ご家族への介
助方法の指導、車椅子、杖の調整も
行います。右の写真は調整機能付短
下肢装具(TAPS)を使用して、退院
後の生活を想定した最適な装具作
成に向けて評価を行っているところ
です。

在宅部門の理学療法士が病棟で
の理学療法を担当することもあり、申
し送りやミーティングの場面で意見
を交換し、退院後の生活を見据えた
理学療法の提供に繋がるような仕組
みにしています。



短下肢装具の調整の様子

TOPICS 01 鳥取大学医学部附属病院との 職員相互派遣による人事交流を開始

国立大学法人鳥取大学と社会福祉法人こうほうえんは職員派遣協定を結
び、平成28年4月1日より鳥取大学医学部附属病院と錦海リハビリテーシ
ョン病院との間でリハビリ職員の相互派遣による人事交流を開始しました。初
回として理学療法士が3ヵ月間の予定で派遣先での勤務を開始しております。
本事業の目的は、互いの病院職員が日頃経験することができない、急性期・回
復期・生活期までの幅広いリハビリテーション医療の経験を得ることにあり
ます。また、本事業による経験を積んだ職員によって、急性期治療から地域生活
に向けた地域医療連携の充実に繋がることも期待しています。



錦海リハビリテーション病院
横木貴史 理学療法士



鳥取大学医学部附属病院
和田朋美 理学療法士

「急性期における理学療法のリスク管理
など様々な経験を積みスキルアップでき
るよう頑張りたいと思います。」

「患者様が退院されるまでの流れやセラピ
ストの視点、考え方を学び急性期のリハ
ビテーションに活かしていきたいです。」

TOPICS 02 回復期リハビリテーション病棟協会 認定看護師を急性期病院へ講師派遣

当院では現在、回復期リハビリテーション病棟協会認定の「回復期リハビ
リテーション看護師」が3名在籍しています。その活動の一環として、鳥取大
学医学部附属病院と米子医療センターにて「回復期リハ病院と看護師の役
割」についてお話をさせて頂きました。急性期病院で生命の危機を脱した患
者さんが、その後回復期リハ病院でどのような生活をしているか、またリハ
ビリが主となる現場で看護師はどのような役割を担っているのか、当院の入
院前から退院までの流れや設備の紹介、自宅訪問、療士・医師・社会福祉
士など多職種との連携などについてお話しさせて頂きました。どちらも看護
師だけでなく療士など多職種の参加がありました。普段お互いの仕事を
知る機会は少ないのでこれを機に回復期について知ってもらい、さらに地域
の中での連携が図れればと思います。



左から坂根嘉奈子主任、福田由美子看護師、片寄加代子看護師

TOPICS 03 第5回電子カルテ 共通病院研究会に参加しました

平成27年10月24日に毎年恒例となりました電子カルテ共通病院研究会
が東京都の初台リハビリテーション病院で開催され、当院からも6名が参加し
ました。研究会では電子カルテデモンストレーションによる各施設のシステム
比較や新機能の紹介、『生活期への情報提供について電子カルテで出来ること
を考えよう』をテーマに当院からは堀谷多恵子 社会福祉士が取り組みを発表
し、理想的な生活期への情報提供・共有の在り方について各病院が様々なア
イデアを持ち寄り意見交換しました。平成28年度開催地となる錦海リハビ
リテーション病院での再会を約束し第5回研究会を閉会しました。



角田賢副院長による、次回開催病院あいさつ

TOPICS 04 北米視察研修報告 (米国:クリーブランド)

2015年10月2日から法人研修制度の一環として、北米視察研修に錦海
リハビリテーション病院の職員(永岡直充 理学療法士、原美苗 作業療法
士)が参加しました。アメリカ合衆国オハイオ州クリーブランドにあるAkron
Generalグループが保有する病院、通所リハビリテーション施設、通所介護
施設、入所施設の計7カ所の施設を見学しました。

医師の診察、外来と入院患者のリハビリテーション、患者の心身機能の向
上を目的にゴルフを通じてリハビリテーションを提供する施設など、初めて
見るもの、驚くものがありました。また現地の理学療法士は、患者に対し
明確な指示、目標を提示し、最小限の動作介助、アイシングなど物理療法の
併用によるリスク管理など常に患者の能力を最大限引き出す関わり方をし
ており、自身の臨床の考え方や視野を広げる貴重な体験をさせて頂くことが
出来ました。



通所リハビリテーション施設の理学療法士と一緒に